

## 「2020 年を見据えた今後の取組」の議論について

## 1 . 問題意識

昨年 UNDB-J ロードマップを策定し、UNDB-J 及び各構成団体は、2020 年に向けてロードマップに基づき取組を進めているところである。

ロードマップにおける個別の取組に関する「2020 年の目標(指標)」の達成は勿論であるが、必ずしも指標で示されるものだけではない、「2020 年の具体的な成果(着地点)」についても対外的に提示する必要がある。

そして、「成果」を見据え、それに向けて、各団体が具体的にどのように取り組んでいくのか考える必要がある。

以上を踏まえ、今年度の UNDB-J の委員会、幹事会等の場を通じて、「2020 年の具体的な成果」について議論し、共有する。そして、ロードマップの各団体の取組にフィードバックする。

併せて、成果を具体的にどのような形で、国内・国外に発信していくかについても議論する。

ロードマップにおいては、「目指すべき社会像」が示されているが、これは 2020 年より先の「主流化」された姿を示したものであり、「2020 年の具体的な成果」を示したものではない。

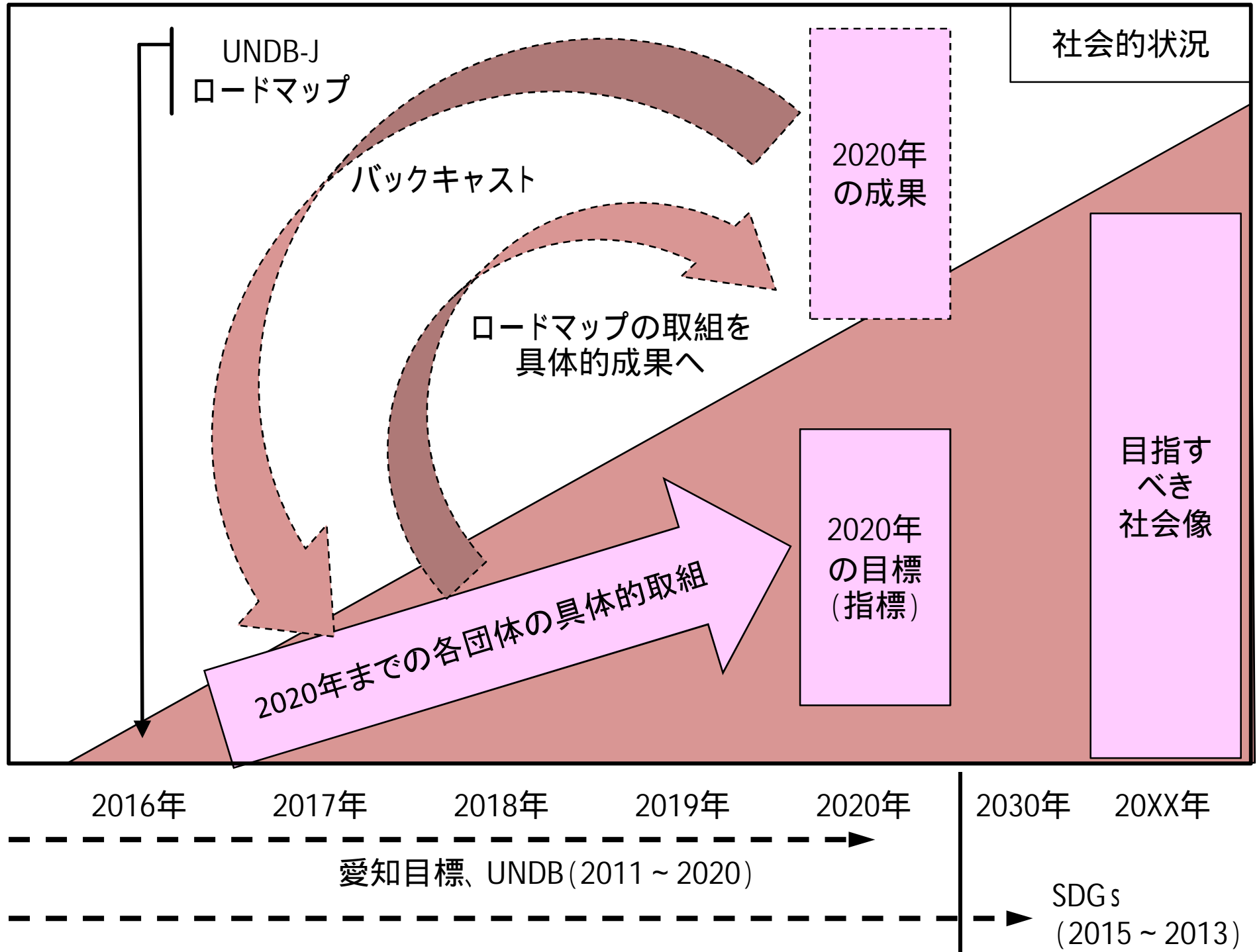
## 2 . 本日の議論

資料 9 - 2 「2020 年の具体的な成果」イメージについて、委員会において意見をいただく。

本日の議論を踏まえ、事務局にて「成果」イメージをブラッシュアップするとともに、幹事会までに各団体として提示できる「成果」を検討してもらい、幹事会においてさらに議論する。

その上で、構成団体において「成果」イメージを共有し、各団体において成果イメージを念頭におきながら、ロードマップの取組を更に進めていく。

また、成果を具体的にどのような形(発信する場、発信方法、発信にあたっての工夫等)で、国内・国外に発信していくかについて、委員会において意見をいただく。



## 「2020年の具体的な成果」イメージ（案）

「2020年の具体的な成果」については、ロードマップの「目指すべき社会像」の各項目に対応したものとして以下の通り整理する。

1. 生物多様性に配慮した消費活動・産業活動が普及している。  
企業活動における生物多様性の取組が進展した。
  - 経営方針等への生物多様性概念の盛り込み等の状況（様々な企業調査結果の活用） 等
2. 日頃から自然とふれあうライフスタイルが一般化している。  
動物園、水族館、植物園、博物館、図書館等が連携した普及啓発に関する取組が展開された。
  - 具体的な取組事例
3. 生物多様性の保全と持続可能な利用を通じた都市や地域づくりが進んでいる。  
生物多様性保全のための広域的な自治体連携の取組が展開された。
  - 具体的な取組事例
4. 生物多様性の保全と持続可能な利用が組み込まれた自然共生社会の基盤が形成されている。  
生物多様性に関する人材育成が進展した。
  - eco 検定合格者数
  - 自然観察指導員育成 等